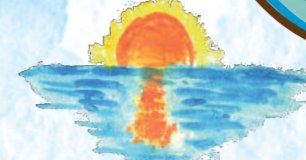
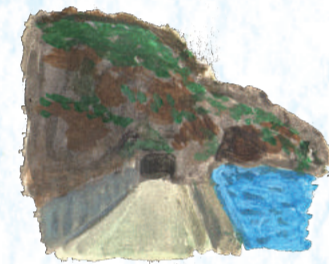


YAMATOSON AMAMI NATIONAL PARK'S MAP
**大和村
 奄美群島国立公園
 マップ**

生命にぎわう亜熱帯のシマ
 ~森と海と島人の暮らし~

奄美群島は島ごとに特色ある自然や風景、それらと密接に関わっている伝統文化が今でも数多く残されています。また、奄美群島国立公園には「生態系管理型」と「環境文化型」という2つのコンセプトがあり、自然と文化、両方を守る新しいタイプの国立公園です。
 大和村では宮古崎やマテリアの滝、奄美最高峰の湯湾岳、今里の立神などが国立公園に指定されています。



- 国立公園には種類があります!**
 保護の重要性が高い地域ほど規制が強かかっていますが、事前に申請をすれば行為が可能な地域もあります。
- ① **特別保護地区** 公園の中で、特にすぐれた自然景観を保持し、最も厳しく行為が規制される地区。
 - ② **第1種特別地域** 特別保護地区に準ずる景観をもち、現在の景観を極力保護することが必要な地域。
 - ③ **第2種特別地域** 農林漁業活動について、努めて調整を図りながら景観を維持することが必要な地域。
 - ④ **第3種特別地域** 通常の農林漁業活動については規制のかからない地域。
 - 普通地域** 上記地域の保護のための緩衝地域。



宮古崎 *ウォーキングマップあり 裏面右A

戸門ふれあいパーク

高嶺公園

高嶺公園

大金久

大和

大和まほろば館

国直サコセットパーク

国直

Bee Lunch
 ビーランチ

TERU-BOZU
 てるぼーず

湯湾釜

奄美市名瀬

津名久

思勝

奄美野生生物保護センター

ひらとみ神社

WESTERNER'S CAFE
 ウェスターナーズカフェ

徳済の断崖

名音

今里立神

今里

志戸勘

奄美フォレストポリス

マテリアの滝

2

3

2

1

B 湯湾岳 *ウォーキングマップあり 裏面右C

宇検村

奄美市住用町

奄美フォレストポリス併設
 特別保護地区に一番近い遊び場

遊戯広場

管理棟

グラウンド

グラウンド

バッテリーカー

水辺の広場

まやこぶ場管理棟

マテリア茶屋

マテリアの滝

大柵

湯湾岳

Amami Guntō National Park in Yamato-Son 大和村の国立公園

国立公園とは？

国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づき、国が指定するものです。
国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特徴です。
国立公園では、環境省を始め地域の関係機関や団体等が連携・協力して、自然の保護と利用を推進するための様々な取り組みが計画・実施されています。
奄美群島は、平成 29 年 3 月 7 日に全国 34 番目の国立公園として指定されました。

奄美群島国立公園の島々

地史の違いから、山地のある高島(奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島)と、低く平らな低島(喜界島、沖永良部島、与論島)に分けられ、この2つでは動植物や景観が大きく異なります。
奄美大島は、国内有数の雨が多い島で、年間降水量の平均値は 2,800mm を超えます。スタジイが優占する亜熱帯照葉樹林は国内最大規模を誇り、奄美群島の最高峰である湯湾岳(694.4m)を中心とした島の中部の森林には、アマミノクロウサギ、オオトラツグミ、アマミエビネといった固有で希少な動植物が多く生息しています。沿岸部は地形の変化に富んだリアス式海岸となっており、太平洋に注ぐ住用川と役勝川の河口域には広大なマングローブ林が発達しています。

国立公園の新しい考え方

奄美群島国立公園は、従来にはない生態系管理型と環境文化型という二つの新しい考え方に基づいて保護管理を行います。
(生態系管理型) 多くの固有で希少な動植物が生息・生育する亜熱帯照葉樹林を中心に、自然景観だけではなく生態系全体を保全するために科学的データに基づいた順応的管理を図ります。
(環境文化型) 奄美群島の森や川、浜などの自然環境は、人々の暮らし、営みなど、文化に深く関わってきました。古道、サンゴの石垣、稲作とそれにまつわる風習のある風景、リーフで魚介類を捕る風習など、人と自然の関わりを国立公園の魅力のひとつとして、守り継いでいく一助となるように努めます。

世界自然遺産登録を目指して

人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき宝物。それが世界遺産です。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録を目指しています。

大和村の伝統文化と風習



八月踊り サンゴの石垣 Jロの祭り 神山と神遊 イヅリヤ漁

自然を楽しむルール

- 動植物をとらない、脅かさない、傷つけない、持ち込まない**
些細な行為が、繊細な自然環境や生きものに大きな影響を及ぼす可能性があります。
※法律や条例で指定されている動植物を採取、捕獲することは禁止されています。
- 道を外れて歩かない**
歩道や木道を外れて歩くと道に迷ったり、ハブに遭遇する危険が高くなります。また植物が踏み荒らされたり、土が削られたりします。
- ゴミは持ち帰る**
景観や野生生物に影響を及ぼします。ウミガメなどがゴミを誤飲する恐れもあります。
- 車のスピードは控えめに**
アマミノクロウサギなど野生生物が道路を横断することがあります。特に夜間の運転はスピードを落とし、安全運転を心がけましょう。
- ペットを逃がさない**
犬や猫は、有能なハンターです。奄美にもともといる野生生物を簡単に捕まえてしまいます。リードでつなぐなど、逃げないように注意しましょう。
- マリンレジャー**
海の危険生物をあらかじめ確認しておき、安易に触れないようにしましょう。また、単独で泳がず、複数で行動し水難事故に注意しましょう。

ポイント！

- 特別保護地区は全ての動植物の採取・採集などが禁止されています。この場所では、ハブ獲りもできません。
- 特別地域では、昆虫採集のためのトラップなどを設置することはできません。事前に許可申請が必要です。
※手づかみや虫取り網での捕獲に規制はありません。しかし、国立公園の内外に関わらず、法律や条例で指定されている種を捕獲・採取等するには、事前に許可申請が必要です。条例に指定されている種について詳しくは、奄美大島自然保護協議会 <http://amami-ancc.com> をご覧ください
- 海域公園地区では、指定された魚介類の捕獲が規制されています。大和村内に海域公園地区はありませんが、国立公園内外を問わず、漁業権を侵害しないよう注意しましょう。

関連施設案内

環境省奄美野生生物保護センター
奄美群島の生きものや自然を保護するために設立された環境省の施設。アマミノクロウサギなどの希少な野生生物に関する調査・研究や普及啓発活動、「奄美大島、徳之島、西表島、沖縄島北部」の世界自然遺産登録に向けた取組などを総合的に行う拠点。奄美群島それぞれの島の生きものについての展示があり、最新情報を得ることができる。

開館時間 9:30 ~ 16:30
休館日 毎週月曜(祝日を除く)・年末年始(12月29日~1月3日)
入館料 無料
電話 0997-55-8620

大和まほろば館
村営の物産館で、スモモ、たんかんなどの特産物とその加工品。地元の新鮮野菜や近海で捕れた魚介類などが並ぶ。人気商品はスモモとたんかんのソフトクリームとかき氷。ここでしか味わうことができないので、ぜひ立ち寄って欲しい。

営業時間 8:00 ~ 17:00
休業日 年中無休 ※臨時休業日あり
電話 0997-57-2980

奄美フォレストボリス
湯湾岳のふもとにある、森林公園。敷地全体が国立公園に指定されている。水辺のゾーンではトンボなどの昆虫観察、溪流ゾーンでは川遊びなどが楽しめる。食事処マテリア茶でのお食事や宿泊施設、キャンプ場もある。

休業日 毎週月曜日
電話 0997-58-3166

登山・散策



宮古崎(ササントウ)

国直集落から岬まで徒歩 20 分。岬一帯がリュウキュウチク※で覆われ、奄美群島の中でもここで見ることができない風景が広がる。リュウキュウチクは通常、人の背をゆうに超えるくらい伸びるが、宮古崎の岬一帯だけは強い風の影響を受け、膝丈くらいまでしか伸びない特殊な環境となっている。
※リュウキュウチクの利用
昔、浦内地区の家や高倉(倉庫)の屋根はほとんどが宮古崎で採集したリュウキュウチクが使われていた。スキの茅葺きが 5 年程度しかもたないのに対し、リュウキュウチクは低く見積もっても 20 年は耐久に優れていたという。今では大和村の群畜以外でリュウキュウチクが使われている高倉は見当たらない。



国指定天然記念物オキナワラジロガシ林

大和浜集落にある遊歩道入り口から徒歩 15 分。大和浜集落の水源地として古来より大事に守られてきた神山に樹齢 250 ~ 300 年程のオキナワラジロガシの林が広がる。オキナワラジロガシは日本で一番大きなドングリの実をつけるが、ドングリは森の更新や生きものの食料となるので、どうか持ち帰らないで欲しい。
※神山(カミヤマ) 大和村の全ての集落に「神山」がある。神山は集落の水源地として守られ、山に入らせず木を切ることを許さなかった。



湯湾岳(694m)

奄美群島最高峰の山で、その昔、神々がこの山に降り立ち奄美大島を創造したと言い伝えが残る神聖な場所。大和村と宇検村それぞれに登山道の入り口がある。大和村側はボードウォークが整備され入り口から徒歩 15 分で祠に着くように整備されている。登山を希望するなら宇検村側の登山道に沿って 60 分ほどで祠に着く。大和村と宇検村の登山道の入り口は、離れた場所にあるので歩いてきた道に戻った方がよい。また、大和村側の湯湾岳周辺にはトイレがないため、奄美フォレストボリスを利用してから訪れてほしい。



マテリアの滝

「マテリアヌ コモリ=本当に美しい太陽の滝壺」という意味の美しい滝。昔は旅人が疲れを癒す休憩所でもあった。ここには昔から「ミンカブリヤウナギ」というオオウナギ伝説が残る、その大きさは人の太ももほどもあるオオウナギであったという。

体験ツアー

NPO 法人 TAMASU 電話：0997-57-2828 <https://www.amami.org>
奄美大島の豊かな自然と向き合う中で生まれた文化や自然体験をプログラムとして提供。国直集落歩きや郷土料理作り、マリンアクティビティなどプログラムは多岐に渡る。※プログラムは季節によって異なります。

奄美フォレストボリス 電話：0997-58-3166 <http://www.amamiforest.com>
専任ガイドが大和村内にあるマテリアの滝や湯湾岳などのパースポットを巡るツアーや、夜行性の動物などを観察するナイトツアーのご案内です。



ウォーキングマップ



ハブ噛まれなために！

- ・できるだけ道の真ん中を歩く。
 - ・不用意に草むらに入らない。
 - ・やむをえず草むらに入るとき、長靴を履き棒で叩きながら進む。
 - ・ハブを見つけたら 1.5m 以上離れる。
 - ・納屋などには上下左右、頭上を確かめてから入る。
 - ・森や川岸ではつばの大きな帽子、長袖シャツ、軍手、長靴を着用する。
 - ・夜は照明を持って歩く。
- もし噛まれたら、すぐに 119 番にお電話を。

生きもの紹介

アマミノクロウサギ
奄美大島と徳之島に生息している、国の特別天然記念物。スタジイの実を食べること、鳴き声でコミュニケーションをとることが大きな特徴。

アマミトゲネズミ
奄美大島だけに生息している、国の天然記念物。トゲのように固い毛をもっていることからこの名前がついた。ハブからの攻撃を回避するために大きくジャンプすることが知られている。

ケナガネズミ
奄美大島と徳之島、沖縄島に生息している。国の天然記念物。日本でも一番大きいネズミで、毛が長くしっぽは胴体より長い。樹上で生活し木の葉や虫などを食べる。

オオトラツグミ
奄美大島だけに生息している。森林伐採の影響で減少し、かつては 200 羽もいないと考えられていたが、近年は森林の回復とともに数が増えている。春先の早朝に美しい声でさえずる。

ルリカケス
奄美大島と加計呂麻島、請島に生息している。羽が美しいため、かつては乱獲され数を減らした。さまざまな鳴き声でコミュニケーションをとり、ドングリが不作だと細のサツマイモなども食べる。

アマミヤシギ
奄美大島と加計呂麻島、請島、与路島、徳之島では留鳥。喜界島と沖永良部島では冬鳥。長くちばして地中のミズを食べる。月の明るい夜は道路上によく出てくるため、交通事故に注意。

オットンガエル
奄美大島と加計呂麻島に生息している奄美群島で一番大きなカエル。ふつうのカエルの前足の指は 4 本だが、オットンガエルは 5 本ある。「オットン」とは方言で「大きい」という意味。

アマミシカワガエル
奄美大島だけに生息している。以前は沖繩のものと同種とされていたが 2011 年に別種とされた。緑色の地に金色の斑点があり、日本で一番きれいなカエルといわれている。

アマミハナサキガエル
後足が長く、大きなジャンプをする。足の長さは奄美のカエルの中では一番で、とてもスマートな姿をしている。体色は緑、茶色などいろいろな模様をしている。

ウミガメ
奄美大島は、アオウミガメとアカウミガメが産卵しにやってくる。漁港やダイビングで見られるのはアオウミガメ。アカウミガメは産卵の時期だけに沿岸にやってくる。産卵時期は 5 ~ 7 月頃。

ザトウクジラ
繁殖のため冬の時期だけに奄美群島や沖繩諸島、フィリピン北部の暖かい海までやってくる。大和村では宮古崎や嶺山公園などが観察できる。

ハブ
奄美群島(喜界島・沖永良部島・与論島・粟国島)を除く、沖繩諸島(伊豆名島・粟国島)を除く)に生息している毒ヘビ。体色はさまざまで「金ハブ・銀ハブ・黒ハブ」など個体差がある。

ヒヤン
奄美大島と加計呂麻島、与路島、請島に生息している。オレンジ色に黒い縦帯が入った色鮮やかなヘビ。毒はハブより強いが、性格が温和で口が小さいなどの理由で被害報告はないらしい。

ヒカゲヘゴ
奄美大島以南に分布。日当たりの悪い湿った谷間や斜面に生えるシダ植物。高く大きなシダの姿は、恐竜が出てきそうな雰囲気がある。道路脇や奄美フォレストボリスで見ることができる。

ソテツ
畑の境界に植えていることが多い。戦後の食糧難の時は実や幹を食糧に利用したため、島の人にとってソテツは命の恩人である。今では漁港近くの斜面では、ソテツの野生が数字の 7 に見える。

スタジイ
奄美大島の森の 6 割がスタジイで形成されているといわれている。このスタジイのドングリが奄美の多種多様な生きものを支えている。また、混ぜご飯、味噌や焼酎、お菓子など人間も食料として利用した。